



特別支援教育ほっと通信



令和2年1月
西部教育局

「個別の教育支援計画」と
「個別の指導計画」の位置づけの可視化例

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用
編集：全国特別支援教育推進連盟より引用（一部加工）

個別の教育支援計画

本人 保護者 学校 関係機関

【作成目的】 長期的な視点で乳児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うため

3年後の目指す姿を
関係者で共有

- ・将来の生活に対する本人、保護者の願い
- ・関係機関で目指す姿
- ・現在の社会参加の状況
- ・**学校で身に付けてほしい力**

作成目的や活用方法の違いを明確にすることで、
きめ細かな指導や支援を実現するための
適切な計画づくりにつながります。

作成・活用のシステム構築には、
すべての教師と関係者の理解と協力が
必要です。

評価

改善

個別の指導計画

教育課程を踏まえ、
どの教科等の目標・内容か…

【作成目的】 実態に応じたきめ細かな指導を行うため

実態把握

- 特別支援学級担任
- 通級指導教室担任
- 特別支援教育主任
- 学級担任
- 教科担任
- 教務主任

過去の個別
指導計画等
を活用

学びの履歴を把握

【各教科等】
①学習指導要領
②学習上の困難

【自立活動】
6区分27項目

諸検査等の結果

課題関連
の整理

1年後の到達水準

各教科等の目標・内容
各教科等の学習評価

手だて・配慮

自立活動の目標・内容

自立活動の学習評価